



看護ケア推進たより 13号

2017年2月



「訪問します！健康講座」大阪病院賞 受賞



「訪問します！健康講座」チームは、専門看護師・認定看護師で構成されたチームです。2015年4月から、地域住民、医療機関、介護施設に皆さまの健康づくりの一環として、チームメンバーが地域に訪問し、無料で健康講座を開催してきました。これまでに14施設、約450人の地域住民・近隣の医療機関の皆さまに講座を開催しました。

健康講座の内容は、『糖尿病予防のための健康講座』『家族が目の前で倒れた時の対応』といった皆さんの関心の高い内容としています。講座を通して多くの質問をいただいております。参加者から「これだったら出来そう」「何かあったときに救急車はどうしたら呼べる？」といった声があります。皆さまが日ごろ抱えている疑問やちょっと聞いてみたいことをその場で解決しています。また、最新の医療情報を具体的に説明することで疑問や不安の軽減に繋がるようにしています。顔と顔を合わせるからこそ、理解しあえることがたくさんあり、私達にとっても貴重な時間となっています。まだまだ始めて間もない健康講座ですが、今後も多くの「訪問します！健康講座」を開催することで、皆さまの生活習慣病の予防や早期受診行動に繋がるようにお手伝いしていきます。また近隣の医療機関の皆さんとは、気軽に相談ができる関係を作っていきたいと考えています。

(集中ケア認定看護師 澤井真理)



大阪病院賞 表彰式



当院の専門看護師・認定看護師



今年度より在宅支援実行委員会のリンクナースとして活動しています。在宅看護に興味がありましたが、師長から在宅委員を勧められたときは、自分にこの役割が務まるのかと不安が大きかったです。リンクナースとして自分にできることを見つけようと医療福祉相談室へ院内留学し、他病棟の在宅・合同カンファレンス、転院先とのやり取りや患者家族との面談などを見学しました。病院・地域の連携を知るととても良い機会になったと同時に、患者・家族と一番傍で関わることのできる病棟看護師が、しっかり情報収集を行い、患者・家族と話し合っ退院目標を明確にし、他部門と協働していくことが大切であると実感しました。



カンファレンスの様子（12階東病棟）

短い入院期間の中で患者様が不安なくスムーズに退院・転院できるように支援していくことが、在宅委員の役割と考えます。整形外科病棟の患者様の中には術前からADLが低下している患者様や緊急入院された高齢の患者様がおられます。入院時に退院支援計画書を用いてスクリーニングし、週1回の在宅カンファレンスで状況の把握・検討を行い、看護サマリーの記載が遅れて転院調整が滞らないよう働きかけています。在宅看護に関しまだまだ知識不足で日々奮闘していますが、多くの患者様が不安なく笑顔で退院を迎えることができるように、今後も活動を続けていきたいと思ひます。

（12階東病棟 吉田千紗）

「第11回 JCHO 大阪病院 ケア連携の会」開催報告

平成28年10月17日に第11回ケア連携の会を開催いたしました。今回は、いつもの事例検討とは趣向を変え、医療・看護トピックスの情報提供と題して誤嚥性肺炎と誤嚥予防に関する内容について当院の佐々木義明呼吸器内科部長、田野岡文子脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、そして、なごみライフ訪問看護ステーションの山本恵訪問看護認定看護師よりご講演いただきました。当日は、地域より32施設49名、当院職員32名の合計81名の方々がご参加下さりました。また、今回はヘルパーの方々にもご参加いただきました。



参加者からは、「新しい知識が勉強でき、介護施設で働いている者として知っておく必要があるなと感じた」「事業所で今日の講演を共有します」などのお言葉をいただきました。医療は日々進化しており、それとともに、生活を支える支援についても変化が求められています。今回の講演を通して日々実践している支援が意味のある大切なケアであることを再確認でき、新しい知識や方法について学ぶことができました。今後も、このような情報提供の機会についても企画し、地域の皆様と共に学びを深めていければと思います。

（糖尿病看護認定看護師 吉田多紀）



専門看護師 & 認定看護師 合格更新報告



認定看護管理者 田中小百合看護部長

2011年に認定看護管理者の認定を受け、昨年1回目の更新を終えることができました。その間、新組織への移行、新病院への移転など組織的に大きな事業の中で、看護管理者としてかかわれたことは私の財産となっています。支えていただいた皆様に感謝しつつ、これからも組織や地域の医療・看護の質向上に努めてまいります。



認定看護管理者 古田由美子副看護部長

2015年度に「認定看護管理者教育課程サードレベル」を修了し、2016年7月に認定看護管理者の試験に合格しました。社会や地域が求めるヘルスケアサービスを提供するため、看護に求められていることを、JCHOの理念や大阪病院の理念に基づいて具現化出来るように、能力を発揮したいと思います。



認定看護管理者 中山昌美看護師長

看護師長として、看護管理を長年実践している中で、看護管理も幅広い知識と判断が要求されると感じていました。看護管理について、改めて学習する機会がないかと考えていた時に認定看護管理者の試験があると知り、受験しました所合格することができました。今後も学ぶことを忘れずに、看護の質向上のために頑張っていきたいと思います。



糖尿病看護 吉田多紀認定看護師

様々な方々に支えていただきながら2回目の更新を無事に終えることができました。1回目の更新までも「あっ」という間でしたが、2回目の更新までの期間は更に短く感じています。糖尿病看護の奥深いところに魅力を感じており、糖尿病看護が大好きです。大好きなことを実践できる環境にいられることに感謝しつつ、リソースとして活用してもらえようこれからも頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。



小児救急看護 亀島こずえ認定看護師

2011年に小児救急看護認定看護師の資格を取得し、小児病棟・救急室・小児科外来で勤務し、実践・指導・相談を行ってきました。昨年10月に5年目の更新をしました。看護部長をはじめ皆様から、たくさんのご指導やお力添えを頂きました。こどものことなら亀島とっていただけるよう努力をしていきます。今後ともよろしくお願い致します。



がん看護 仲森由香専門看護師

2011年にがん看護専門看護師の資格を取得し、今回初めての更新を無事に終えることができました。5年間看護ケア推進室に在籍し、横断的に活動させていただく中で悩むことも多くありましたが、たくさんの方々のお支えがあり、今まで活動することができました。今後がん看護専門看護師として役割発揮できるよう努めていきたいと考えています。





日本看護協会の特定行為研修を受講して・・・

平成 28 年度特定行為研修が 11 月 15 日に開講し、中西皮膚創傷ケア認定看護師と中村集中ケア認定看護師が受講しました。

特定行為とは、厚生労働省が診療の補助行為であるとした 38 行為 21 区分です。それらを行うための知識技術を習得するためには研修が必要となります。特定行為研修は、看護師が手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修です。

具体的には、共通科目（臨床病態生理学、臨床推論、フィジカルアセスメント、臨床薬理学、疾病・臨床病態概論、医療安全）と区分別科目（特定行為に関する内容）について学びます。これらは講義と演習だけでなく、5～18 日間に及び臨地実習を通して習得します。私たちは、11 月からの約 3 か月間の研修を終え、2 月からは JCHO 大阪病院での臨地実習に臨みます。私たちは認定看護師としても役割をふまえ、特定行為のみを行うのではなく、看護の関わりの中で特定行為を含めた医療を提供することで、看護の専門性の更なる発揮に繋がるように努力していきたいと考えています。



（皮膚排泄ケア認定看護師 中西由香 集

特定行為及び特定行為区分(38行為21区分)

特定行為区分	特定行為	特定行為区分	特定行為
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	創傷管理関連	褥(じよく)瘡(そう)又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 創傷に対する陰圧閉鎖療法
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更	創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更	動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血 橈骨動脈ラインの確保
	人工呼吸管理がなされている者に対する換気量の調整 人工呼吸器からの離脱	透析管理関連	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	気管カニューレの交換	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 脱水症状に対する輸液による補正
循環器関連	一時的ペースメーカーの操作及び管理	感染に係る薬剤投与関連	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与
	一時的ペースメーカーリードの抜去	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整
	経皮的心筋補助装置の操作及び管理	術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
	大動脈内バルーンポンピングからの離脱を行うときの補助頻度の調整	循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整
心臓ドレーン管理関連	心臓ドレーンの抜去	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時的投与 抗精神病薬の臨時的投与 抗不安薬の臨時的投与
胸腔ドレーン管理関連	低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及び設定の変更	皮膚損傷に係る薬剤投与関連	抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整
腹腔ドレーン管理関連	腹腔ドレーンの抜去		
ろう孔管理関連	腹腔ドレーンの抜去(腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む。)		
	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換 膀胱ろうカテーテルの交換		
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	中心静脈カテーテルの抜去		
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入		

厚生労働省令第33号(平成27年3月13日)

